

第3回愛知県栄養塩管理検討会議での主な意見と今回の対応

委員	発言内容	本会議または今後の対応
鈴木	シミュレーションに関して、計算における浄化センターの増加運転の状況について示してほしい。	参考資料3に2022年度再現シミュレーションの計算条件を示した。 栄養塩管理のあり方検討に必要な項目から検討を進めていく計画である。
亀井	シミュレーションに関して、溶存酸素の結果も確認したほうが良い。	
鈴木 森川	漁獲努力量の調整によるCPUEへの影響があり、資源量の水準判断が難しい。	資料5に一色干潟における現存量の調査結果を示した。
鈴木 藤村 中田	浄化センターは放流濃度を日間平均の値でC値の範囲内で厳しく管理している。週間平均にするなど運用方法を見直せると良い。	本会議での主題ではないが、現場の課題を抽出し、今後の検討につながるよう努めていく。
井上	全窒素・全りんごの長期推移トレンドについて、統計的な裏付けをしてほしい。	資料5に統計的にトレンドを解析した文献を引用した。
中田 鈴木	①現在の類型指定では漁業に必要な栄養塩には足りない。 ②2000年代の栄養塩濃度の分布が漁業にとっては望ましい姿。	資料5にアサリ・ノリ漁業位置を示した。 栄養塩管理のあり方については、漁業生産に必要な栄養塩濃度の検討に基づき、効果的な管理方策を検討していくこととなる。
鈴木	貧酸素水塊の拡大には、温暖化などの物理的な海況変化や干潟・浅場の喪失が大きく影響。水質浄化機能には生物の存在が不可欠であり、栄養塩により回復させることが肝要。	
森川 大橋	2000年代の栄養塩濃度の妥当性は赤潮の発生状況含め検証の必要がある。気候変動により赤潮の増加の可能性はないか。	資料5に赤潮等の発生状況を示した。漁業生産に必要な栄養塩濃度が達成された場合の水質浄化機能等も含め、栄養塩管理のあり方として検討されるべきものとする。